「北部郷」中条町・黒川村の　合併に向けて。

両町村のプロフィール

■水と緑の妖精
胎内や日本海の「水」と、飯豊・櫛形の山々の「緑」から誕生。星のステッキで人とまちを幸せへと導きます。

	面　積	人　口	世 帯 数
中条町	84.58㎢	27,528人	8,018世帯
黒川村	180.60㎢	6,750人	1,791世帯
計	265.18㎢	34,278人	9,809世帯

（国勢調査／平成12年）

●黒川村の地勢

黒川村は新潟県の北東部、北蒲原郡の北端に位置し、村の面積の大部分は自然豊かな胎内二王子県立自然公園と磐梯朝日国立公園で占められます。村の中央を清流・胎内川が流れ、山紫水明、四季折々の風情が来訪者に安らぎを与えています。

胎内川

●中条町の地勢

四季折々の美しい自然に彩られる中条町は、胎内川下流の扇状地に開けた国際交流の町で、東には「日本一小さい山脈・櫛形山脈」、西には15キロに及ぶ海岸線に沿って「白砂青松」の砂丘が連なる風光明媚な土地です。

チューリップ畑

地域の歴史

中世のこの地域は、「奥山荘（おくやまのしょう）」といわれる一つの荘園により発展してきました。

平安時代には、豪族・城氏が、要害・鳥坂城（鳥坂山）を中心に権威を奮い、県内一帯を支配するまでに繁栄しました。両地域には城氏やその血縁の女武将・板額御前にまつわる史跡や逸話が多く残り、郷土の誇りとして語り継がれています。

鎌倉時代には、当時の地頭・和田氏が支配し、その後財産分与により領地は分断。地域の中央を「中条（中条氏）」、北側を「北条（黒川氏）」と呼び、その後両地域はたびたび争いを起こします。

両町村は、昭和30年代から合併が話し合われていましたが、昭和41年と42年に見舞われた水害からの復興を第一として、合併協議は立ち消えました。その後、中条町は県北の工業都市として、黒川村は自然を活かした観光開発により、現在の発展を遂げることになります。

胎内観音

板額御前奮戦800年祭

これまでの地域づくり

●中条町

（1）国際感覚にあふれ、歴史と文化の薫るまち
（2）県北の中軸を担う交流拠点のまち
（3）すべての人にやさしい健康福祉のまち
（4）新しい社会の仕組みを見据え、活気に満ちた行政を進めるまち

●黒川村

（1）地域に適した力強い産業づくり
（2）豊かな自然と共生する快適な環境づくり
（3）健康と安らぎの保健福祉づくり
（4）豊かな心と創造性に満ちた人づくり
（5）機能性に富む行財政づくり

※中条町第3次長期計画、第三次黒川村総合計画から抜粋

胎内星まつり（黒川村）

海外体験学習（中条町）

胎内グルメフェスト
（黒川村）

新しいまちづくりへの展開

合併議論の背景には昨今の社会情勢や地方自治体の財政事情が影響していることは否めません。

特に少子高齢化が進み、加えて日常生活圏が一体化している両地域においては、各種行政サービスや公共施設、人材などを共有することが、行政コストの効率化を図るひとつの手段でもあります。

また、もうひとつの視点として、新しいまちづくりへの展開に期待する声があります。地域全体を見渡してみると、コンパクトでありながらも魅力的なものがバランスよく揃っていることに気づきます。

- 飯豊山系、胎内川、櫛形山脈、蔵王山塊、日本海など豊かな自然環境
- 高速道路の開通による都市的機能
- 優良農地と農業基盤の充実、特産品開発のノウハウ
- 自然を活かした保養・観光施設やイベント
- 中世の歴史、史跡、埋蔵文化財

新しいまちづくりを展開しようとする過程の中で、このような魅力的な機能や施設、豊かな自然が連携することにより、新しい活力が生まれ地域外からの投資、定住などに大きな可能性があると考えられます。